

「VICTORY!」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい。そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ

## 最終節で逆転 昇格決定

## 揺るがなかった湘南の攻撃的DNA



町田 0 - 3 湘南

試合終了の笛と同時にベンチのメンバースタッフが一緒にピッチへ。3年ぶりのJ1復帰を決め、抱き合っ  
て喜び選手たち。

開幕当初から曹 貴哉監督が変わらず言い続けてきたこと「目の前の勝点3を取ることにこだわる」。シーズン中、一度もぶれることなく貫き通した信念が、最後に実を結んだ。3シーズンぶりのJ1。歓喜の瞬間、指揮官はピッチに突っ伏した。その上に折り重なるスタッフ、選手。ピッチ上で交わされる擁抱。駆け抜けた今季リーグ戦、42試合は終わりを告げ、湘南ベルマーレは最高の結末を手にしたのだった。

J2残留を懸けたFC町田ゼルビアとのラストマッチ。お互いに絶対負けられないタフなゲームが予想されたが、決戦を前に監督が口にしたのは「いつでもどんな状況でも湘南のスタイルは変わらない。平常心でいだけ」。キックオフから“攻撃的な湘南スタイル”で開始直後の前半

2分にFWキリノ選手が先制ゴールを奪う。その後、町田に押され気味になっていた前半44分には「なかなか得点できず、悔しい思いをしていた」というMF高山薫選手がJ2通算1万1000ゴール目となる追加点を、後半22分にはFW大槻周平選手がダメ押しとなる3点目で勝利を決定づけ、結果3-0で湘南が勝利し、自動昇格に残された最後の1席を確保した。

勝てば自力で自動昇格の2位を守ることができた京都サンガF.C.は、すでに優勝、昇格を決めているヴァンフォーレ甲府と対戦。0-0の引き分けに終わり、湘南に逆転を許し、プレーオフにまわる。

敗れた町田は最下位となり、JFLで優勝して来季J2リーグへの昇格が決まったV・フォーレン長崎と入れ替わりでJFLへの降格が決定した。

### 選手たちの喜びの声。

ハン・グギョン (MF) 今年はキャンプからチームの雰囲気ですごくよかったです。昇格できるんじゃないかと思っていました。昇格決められて本当に嬉しいです。

高山 薫 (MF) サポーターの声に気持ちがこもっていて、鳥肌が立った。J1ではあまり注目されないと思うけれど、下馬評を覆せるように頑張りたい。

阿部 伸行 (GK) 明るくて元気でひたむきで、サッカーに真面目なチーム。このチームで上がりたいという気持ちが強かったし、このチームならできるとしていました。

下村 東美 (MF) いま、ケガでリハビリを一生懸命やっている選手もいますが、そういう選手、スタッフ、サポーターみんなで力を合わせて成し遂げたJ1昇格だと思うので本当に良かったです。

島村 剛 (DF) 難しい試合になると思っていたし、プレッシャーもあったが強い気持ちをもって平常心で戦うことができた。

岩上 祐三 (FW) すべてにおいてハイレベルのJ1で、自分のプレーがどれくらい通用するのか全力でやりたいし、湘南スタイルを貫いてより上を目指していきたい。

古橋 達弥 (FW) 皆さんと一緒に喜び合えて本当に嬉しく思います。今日のJ1昇格はゴールではなくスタートだと思っています。来年はJ1でまた一緒に暴れましょう。



指揮官の大きな身体が2回、3回と宙に舞う。「皆さんを胴上げしたい」。選手たちの願いが現実となった。



アウェイ町田の競技場に集まったサポーターは約4000人

## No.6 MF 永木 亮太 J1でも湘南スタイルで走り続ける。



京都 vs. 甲府の試合経過をまったく知らなかった。試合終了後のベンチの様子を見て初めて昇格を確信しました。

今年のチームは若くて経験の浅い選手が多く、いいときと悪いときの波があったと思います。僕も個人的に一年通して技術もメンタルも安定した状態でプレーすることを目標にしていました。気をつけていても勝てない時期は、チームの不調に引きずられて自分も一緒に調子を崩してしまいました。その辺のメンタル面での課題を残しています。「勝たなければ」と思いつぎたり、昇格を意識してしまうのが良くないということがわ

かった。どの試合も1週間変わりなくトレーニングすることを心がけました。チーム全体でも初心に戻って、目の前の試合のGET3(勝点3)だけを意識するというのが、結果的にこの昇格につながったのだと思います。

来季はJ1の舞台上で自分がどこまでできるのか、湘南ベルマーレのスタイルがどこまで通用するか挑戦したいと思っています。



ゲームキャプテンも務め、責任感も増したという永木選手。

## 坂本 紘司 “ピッチを去る決意”



今年はキャプテンとして若いチームの精神的な支えだった坂本紘司選手(33歳)が現役引退を発表した。在籍13年、クラブ史上最多の456試合に出場し57得点を挙げた実績は誰もが認める湘南の象徴的存在、Mr.ベルマーレ。

かねてより「J1昇格への挑戦は、年齢的なものもあるからラストチャンスだと思っている」と話していたベテランは、最終戦の終了の笛をピッチ上で聞き、引退の決意を固めたと言う。「自分の役割はまっとうした」と。

「今後はゆっくりと考えて、自分の

経験を生かせる道を選び、新たなチャレンジに向けて自分らしく進んでいきたい。苦しい時も、どんな時も変わらずに応援し続けてくれたサポーターのみなさん、心から感謝しています」とコメントした。

12月2日(日)に引退イベントが開催される。



### Profile 永木 亮太 (ながき りょうた)

1988年6月4日生まれ(24歳) 神奈川県横浜市出身  
入団2年目の今季はシャドーのポジションにも挑戦。プレーの幅が広がり、安定感も増した。173cm/68kg